

Microsoft ISV Royalty プログラム

Microsoft SQL Server

よく寄せられるご質問



ISV Royalty ライセンス プログラム (ISVR) の Full-Use ライセンスで提供される Microsoft SQL Server エディションは何ですか。

ISVR の Full-Use ライセンスで提供される SQL Server のみのオファリングは以下のとおりです。

- SQL Server Standard Server/CAL および Per Core
- SQL Server Enterprise Per Core

SQL Server 2016 のリリース時に ISVR から削除された Full-Use エディションは何ですか。

SQL Server Business Intelligence (Server/CAL) Full-Use です。これは、ISVR プログラムでリリースされた SQL Server 2014 Business Intelligence の最後のバージョンです。現行の ISVR 契約に基づく ISV (Independent Software Vendors: パッケージ ソフトウェア開発企業) 様は、SQL Server 2014 と統合した自社ソリューションを配布することができます。(延長配布期間内である場合) エンベデッド メンテナンス権を行使してエンド ユーザーを 2014 に (このバージョンが延長配布期間内にあるときに) アップグレードすることができます。

ランタイム ライセンスで提供される SQL Server 2017 エディションは何ですか。

ランタイムとして提供される SQL Server 2017 エディションは以下のとおりです。

- SQL Server Standard Server/CAL

Per Core エディション向けの利用可能なランタイムのバージョンは何ですか。

Per Core エディションの制限付きランタイム バージョンは、SQL Server 2014 の提供開始に伴い提供終了となりました。

SQL Server のパッシブ フェール オーバー使用権の変更点は何ですか。

SQL Server 2014 では、パッシブ フェール オーバー 使用権は基本ライセンスの使用権に変更されました。SQL Server 2014 およびそれ以降のバージョンでは、パートナー様およびお客様は、統合ソリューションが SQL Server インスタンスを実行するすべてのオペレーティング システム環境に対して、一時的なサポートのためのパッシブ フェール オーバー インスタンスをライセンスするために必要な SQL Server の追加ライセンスを取得する必要があります。

SQL Server 2017 Standard のランタイム ライセンスに変更はありますか？

いいえ。SQL Server 2017 向けに変更はなく、引き続き SQL Server Standard Server/CAL ランタイム ライセンスをご利用いただけます。

ISVR ランタイム ライセンスと ISVR Full-Use ライセンスの違いは何ですか。

ISVR Full-Use ライセンスと ランタイム ライセンスは、どちらも常に統合ソリューションの一部として配布される必要があります。Full-Use ライセンスは他のソフトウェア アプリケーション用に使用できますがランタイム ライセンスはできません。どちらの場合も、お客様に統合ソリューションを使用するためのライセンスが付与されなくなった場合、SQL Server ライセンスは使用できなくなります。

Microsoft ISV Royalty プログラム

ISVR Full-Use ライセンスでは、ISV はマイクロソフト製品を統合ソリューションに組み込んでライセンスを許諾できます。このライセンスを使用すると、ISV のエンド カスタマーは、そのマイクロソフト製品の使用が許諾され、ISV の統合ソリューション用として使用される限り、ベースとなるマイクロソフト製品のすべての機能を他のアプリケーションでもフルに利用できます。

ランタイム ISVR ライセンスは、使用制限付きとして提供されます。これらの使用制限により、ISV ユーザーには以下の制限が設けられます。(i) 購入したマイクロソフト製品は、対象となる統合ソリューションでしか使用できない。(ii) 購入したマイクロソフト製品は、対象となる統合ソリューションとは関係のない状況において、別のアプリケーションを実行したり、新規アプリケーションを開発したりするために使用することができない。

ISV は SQL Server 2012 エディション用の Per Core ランタイム ライセンスを報告できますか。

この製品が製品表から削除された時点で有効な ISVR 契約を持つ現行の ISVR パートナーは、この製品が製品表から削除されてから引き続き 48 か月間にわたり SQL Server 2012 Core Runtime SKU を配布および報告できます。SQL Server 2012 エディションは、2014 年 4 月に削除されました。このため、SQL Server 2012 Per Core Runtime の延長配布期間は 2018 年 3 月で終了します。

延長配布期間のポリシーはいつ変更されましたか。

2014 年 10 月、ISVR で提供されるほとんどの製品の延長配布期間が 24 か月から 48 か月に延長されました。このポリシーは、2014 年 10 月の時点で現行の ISVR 製品および延長配布期間内の ISVR 製品に適用されます。SQL Server 2008 R2 などの一部の製品は、この延長から除外されました。除外された製品の延長配布期間は 24 か月のままです。

また、2014 年 10 月のポリシー変更前に 24 か月の延長配布期間が終了した製品についても、延長配布期間は 24 か月のままになります。パートナーは、延長配布期間が既に終了した製品についてはライセンスを報告できなくなります。SQL Server 2008、2005、および 2000 の延長配布期間は 24 か月のままです。これらの製品の延長配布期間は終了していません。

ISV は SQL Server 2008 および SQL Server 2008 R2 の使用を報告できますか。

いいえ。SQL Server 2008 および SQL Server 2008 R2 の延長配布期間は、ISVR 製品表から削除されてから 24 か月です。SQL Server 2008 は 2010 年 4 月に、SQL Server 2008 R2 は 2012 年 4 月にそれぞれ削除されました。したがって、延長配布期間はそれぞれ 2012 年 3 月と 2014 年 3 月に終了しました。

SQL Server 2008 および SQL Server 2008 R2 バージョンを組み込んだ当社のソリューションを展開する必要があるユーザーが依然として存在します。当社のソリューションにこれらの製品を組み込んで配布することはできますか。

2014 年 10 月から、ISVR プログラムによるダウングレード権の提供が開始されました。このため、SQL Server 2008 および SQL Server 2008 R2 バージョンがマイクロソフトによって決定された延長サポート終了日の前である限り、これらを自社のソリューションに組み込んで配布できます。[「Microsoft ライフサイクル ポリシー」](#)を参照してください。ダウングレード権の資格を取得するには、SQL Server の現行バージョン（たとえば SQL Server 2014）または延長配布期間内にあるバージョン（たとえば延長配布期間が 2018 年 3 月までの SQL Server 2012）を報告する必要があります。SQL Server 2008 または SQL Server 2008 R2 ライセンスは報告できません。

Microsoft ISV Royalty プログラム

SQL Server Enterprise (Server/CAL) Full-Use および 制限付きランタイムが組み込まれたソリューションを使用しており、有効なエンベデッド メンテナンスを保有するエンド ユーザー向けの移行パスはありますか。

SQL Server Enterprise (Server/CAL) Full-Use および 制限付きランタイム (カバレッジを失うことなく) の有効なエンベデッド メンテナンスを保有するエンド ユーザーは、ソリューションをそれぞれ SQL Server 2012 または それ以降のバージョンの Full-Use および 制限付きランタイムにアップグレードできます。SQL Server Enterprise (Server/CAL) 2008 R2 は ISVR プログラムでリリースされた SQL Server (Server/CAL) Enterprise の最後のバージョンであるため、SQL Server 2012 または それ以降のバージョンの SQL Server Enterprise (Server/CAL) Full-Use または 制限付きランタイムの新規ライセンスを報告することはできません。エンベデッド メンテナンス権を行使してエンド ユーザーを SQL Server 2012 に (このバージョンが延長配布期間内にあるときに) アップグレードするか、または それ以降のバージョンにアップグレードすることしかできません。

統合ソリューションに含まれている SQL Server 2012 Enterprise Core および Standard Core ランタイムライセンスの有効なエンベデッド メンテナンスを保有するお客様向けの移行パスはありますか。

はい。SQL Server 2012 Enterprise Core および Standard Core ランタイム ライセンスを実行している統合ソリューションの有効なエンベデッド メンテナンスを保有するお客様は、統合ソリューションのアップグレードの一部として該当するエディションの SQL Server 2014 またはそれ以降のバージョンの Full-Use ライセンスに移行できます。

SQL Server ランタイム Per Core ライセンスの削除は、エンド ユーザーにとってどのようなメリットがありますか。

ランタイム オファリングは、特定のアプリケーション向けの非常に基本的なデータ ストレージ機能を提供するために構築されました。一方、プレミアム SQL Server オファリングは、こうした目的を考慮しておらず、単一のアプリケーションから基本データを格納するにはとどまらない、多くの機能を実行するために構築されたものです。そのため、お客様は、これらの製品バージョンを設計目的どおりに使用するだけ非準拠となってしまう場合があります。ランタイム オファリングの排除は、ライセンス条項を簡素化し、違反を削減してパートナーおよびお客様の満足度を向上させるという目標の達成に不可欠です。

ライセンス取得済サーバーのコア密度が データセンター用で 8 個を超えるか、または Enterprise、Standard、Workgroup 用で 4 個を超える場合、コア モデルに移行するエンド ユーザー向けの方法はありますか。

エンベデッド メンテナンスに基づいて、2016 年 4 月 1 日までは、エンド ユーザーは、アップグレード時に製品が実行していた実際のコア数に対してソフトウェアのアップグレードおよび展開ができました (SQL Server 2012 またはそれ以降のバージョンに統合ソリューションとして一部としてアップグレードした場合やアップグレード時にライセンス取得済のサーバー上で SQL Server の使用レコードを保持した場合)。

エンド ユーザーが SQL Server 2012 または SQL Server 2014 へのアップグレードを計画している場合も、このメリットを利用できますが、2016 年 3 月 31 日時点でライセンス取得済サーバー上の SQL Server の使用レコードを作成および保持する必要があります。詳細は、[2016 年 6 月版の ISVR 製品表](#)をご参照ください。

いかなる場合でも、アップグレード時にエンベデッド メンテナンス期間が有効である必要があります。また、エンベデッド メンテナンス権を行使するには、対象期間に中断が存在してはいけません。

Microsoft ISV Royalty プログラム

2016 年 4 月 1 日後にお客様のアップグレードを計画しており、この日付の前にライセンス取得済サーバーの SQL Server 使用レコードを作成しない場合はどうなりますか。

その場合でも SQL Server 2012 またはそれ以降のバージョンにアップグレードできます。ただし、お客様は、「[2016 年 6 月版の ISVR 製品表](#)」に示されている SQL Server 製品に対するコアの数のみライセンスを取得します。これらのエンドユーザーのライセンス取得済サーバーのコア密度がこれより高い場合、お客様は追加の SQL Server コアライセンスを購入する必要があります。

プロセッサからコアライセンスにアップグレードしたお客様のエンベデッドメンテナンスをどのように報告する必要がありますか。

エンベデッドメンテナンスは、アップグレード時に製品が実際に実行しているコア数に基づく必要があります。

SQL Server 2017 にアップグレードするメリットは何ですか。

[SQL Server 2017 製品ページ](#)にてメリットの詳細をご参照ください。

©2017 Microsoft Corporation.